東郷 茂徳 年譜（1882 ～ 1978）

1882 年（明治 15 年）	鹿児島県日置郡苗代川村（後の下伊集院村。現在の日置市東市来町美山）で、陶工・朴寿勝の長男「朴茂徳」として生まれる
1886 年（明治 19 年）	父・朴寿勝が鹿児島城下士の東郷某の士族株を購入し、「東郷」姓を名乗る
1888 年（明治 21 年）	下伊集院村立尋常高等小学校「現美山小学校」へ入学
1896 年（明治 29 年）	鹿児島県第一中学校へ入学
1901 年（明治 34 年）	第七高等学校造士館（鹿児島大学の前身）へ入学
1904 年（明治 37 年）	東京帝国大学（現東京大学）文科大学独逸文学科に入学
1908 年（明治 41 年）	東京帝国大学 文科大学独逸文学科を卒業
1909 年（明治 42 年）	明治大学にて、独逸語教師として勤務
1912 年（大正元年）	外交官及び領事館試験に 3 度目の挑戦で合格
1913 年（大正 2 年）	満州（現中国東北部）の奉天領事館 領事館補
1916 年（大正 5 年）	スイス・ベルン公使館開設に伴い、外交官補として赴任
1919 年（大正 8 年）	対独視察団の一員としてベルリンへ赴任
1921 年（大正 10 年）	日本へ帰国・外務省欧米局一課事務局
1922 年（大正 11 年）	ドイツ人 エディ・ド・ラロンドと結婚
1923 年（大正 12 年）	外務省欧米局一課課長・主に対ソ交渉を担当
1926 年（大正 15 年）	在米大使館主席書記官としてワシントンへ赴任
1929 年（昭和 4 年）	日本へ帰国後、満州へ出張、その後ドイツ大使館参事官として赴任
1932 年（昭和 7 年）	一般軍縮会議日本代表部事務総長としてジュネーブへ
1933 年（昭和 8 年）	帰国、外務省欧米局長に就任（この年、交通事故で全治 1 か月の重傷を負う）
1935 年（昭和 10 年）	北満鉄道をソ連から譲渡
1937 年（昭和 12 年）	駐独大使としてベルリンへ赴任
1938 年（昭和13年）	駐独大使館付陸軍武官「大島浩」が駐独大使に新たに任命され、駐独大使罷免。「重光葵」の後任駐ソ大使として、モスクワへ赴任
1940 年（昭和 15 年）	ノモンハン事件勃発後の捕虜交換、国境確定交渉を締結 モロトフ ソ連外相と日ソ中立条約の交渉開始 第二次近衛内閣の外務大臣となった松岡洋右により帰朝命令が出され帰国
1941 年（昭和 16 年）	東条内閣の外務大臣に就任。日米交渉決裂し、太平洋戦争開戦。日独伊単独不講話協定、日泰攻守同盟条約締結
1942 年（昭和 17 年）	大東亜省設置に反対し、外務大臣を辞任 貴族院議員に任ぜられる（1942年9月1日～1946年4月13日） 12 月 24 日無所属倶楽部（院内会派）入会
1943 年（昭和 18 年）	長女「いせ」と「本城文彦」が結婚、「本城文彦」が「東郷家」に入籍し「東郷文彦」となる。文彦は戦後外務事務次官や駐米大使を歴任する
1945 年（昭和 20 年）	4 月鈴木貫太郎内閣の外務大臣兼大東亜大臣に就任 8 月 15 日ポツダム宣言受託により鈴木内閣が総辞職し、外務大臣を辞任
1946 年（昭和 21 年）	A 級戦犯として指定され、巣鴨拘置所へ入獄
1948 年（昭和 23 年）	極東国際軍事裁判により、禁固 20 年の判決が下る 翌年から「時代の一面」の執筆準備を始める
1950 年（昭和 25 年）	黄疸により米陸軍第361病院（現同愛記念病院）に入院 7 月 23 日、動脈硬化性心疾患及び急性胆嚢炎の併発により 67 歳で死去　墓所は青山霊園
1978 年（昭和 53 年）	10 月 17 日「昭和殉職者」として靖国神社に合祀

生家跡入口（門は復元）

交通のご案内

【鹿児島方面から】 南九州西回り自動車道美山ICから車で約１分
【福 岡 方 面 か ら】 南九州西回り自動車道市来ICから車で約10分
※美山ICは鹿児島方面からの乗入れは可能ですが、川内方面から美山ICでは降りられません。

元外相 東郷茂徳 記念館

□入館時間/午前９時～午後４時30分
□休館日　/毎週月曜日、年末年始（12月29日～１月３日）
□入館料　/一般310円（240円）
小・中学生、高校生150円（120円）
未就学児 無料　※（　）内は20名以上の団体料金

〒899ー2431 鹿児島県日置市東市来町美山1690番地４
TEL 099-274-4370　FAX 099-274-4370

掲載情報は令和５年７月時点の情報です。

【印刷】濱島印刷株式会社

元外相

東郷茂徳 記念館

太平洋戦争という激動の時代
開戦時と終戦時
日本の外務大臣

Former
Foreign Minister
Shigenori Togo
Museum

東郷茂徳（とうごうしげのり）とは

東郷茂徳は、美山の陶工の末裔として、現在の日置市美山に生まれました。大変な勉強家で、第七高等学校（鹿児島大学の前身）や東京帝国大学（現東京大学）へ進学。31 歳で外交官になり、ドイツ大使等を経て、太平洋戦争開戦時と終戦時に外務大臣を務めました。開戦には一貫して反対し、終戦時は少しでも早く戦争を終わらせようと政府の中で孤軍奮闘しました。戦後は、戦時中の内閣の一員であったことからA級戦犯に指名され、禁固 20 年の判決を受けました。2年後、獄中で容態が急変し、転院先の病院で 67 年の生涯を閉じました。

館内の様子
東郷茂徳の生涯と美山の歴史を紹介

陶郷に生まれ 激動の世界を相手にした 外交官の軌跡

展示コーナーと主な展示品

屋内

生い立ち・青春時代

・薩摩色絵紅葉団扇子文透入香炉（父：東郷寿勝作）
・「色絵薩摩菊水千鳥紋手付鉢」　（父：東郷寿勝作）

外交官時代

・履歴書　　・礼状（都築瞥六宛）
・電文（茂徳加筆）

外相時代

・外務大臣任命書　・貴族院議員任命書
・外務大臣免官書　・旭日章　・大礼服
・書類鞄　・名刺

晩年

・東郷茂徳肖像画
・GHQ の裁判質問書　・愛読書　・家族宛の手紙
・友人からの寄せ書き　・手記『時代の一面』の原稿

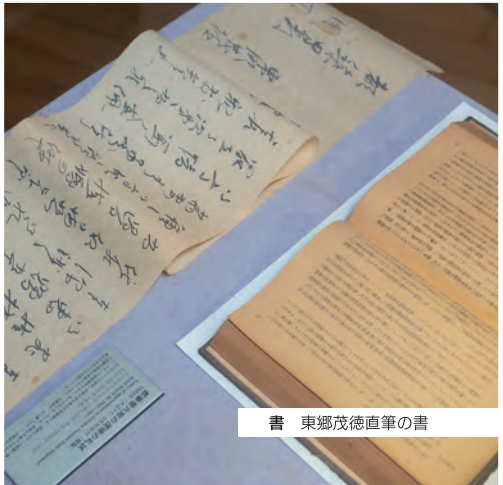
屋外

・東郷窯　・生家跡入口　・東郷茂徳銅像

展示パネル　東郷茂徳の生涯と時代背景を、日本語・英語・韓国語で紹介

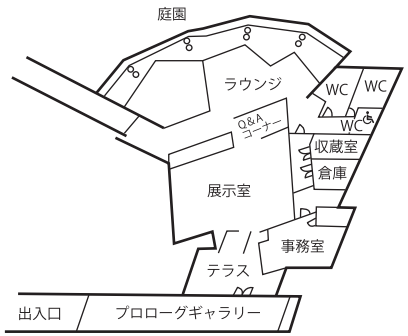
銅像　記念館前広場に建立

遺品　大礼服などの外相時代の遺品を展示



書　東郷茂徳直筆の書

館内案内図 FLOOR GUIDE



ラウンジ　陶郷美山の資料展示